

機関投資家・IR 対応、株主総会対応をはじめ、CSR・CSV 経営などで真価が問われる！

# ESG(環境問題対策・社会人権問題対策・ガバナンス強化)の本質・課題・対応策

～ ビジネス活動を通じた社会問題解決アプローチ ～

《開催要領》 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせて頂く場合がございます。

日時▶ 2018年 7月 27日(金) 14:00～17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

《開催にあたって》

国連勤務時(専門官)より、日本社会で CSR ということ自体に関心が薄かった頃より、ESG の前身ともいえる国連グローバルコンパクト(UNGC)の普及啓発・人権指導を進め、コンプライアンスやダイバーシティ&インクルージョンなどが注目されるはるか以前より、国際基準で実践・指導してきた講師として、ESG にありがちな誤解や過剰反応をときほぐし、身の丈・実態に応じたビジネスを通じての社会問題解決アプローチの重点ポイントを、国連での各国・各社とのやりとりの実体験を踏まえて、わかりやすくコンパクトにお届け致します。

講師 日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長 戸村智恵 氏



早大卒。米国 MBA 修了。国連勤務にて国連内部監査業務専門官、国連戦略立案専門官、リーダーなどを担当。民間企業役員として監査統括や、上場 IT 企業 JFE システムズのアドバイザー、経営行動科学学会理事、JA 長野中央会顧問、日本監査役協会の全体会パネリストなどを歴任。NHK「クローズアップ現代」TV 出演や著書 3 冊など産官学を通じて幅広く活動中。講師プロフィール詳細は <http://www.jmri.co.jp/> にて。

《申込方法》 当会ホームページ (<https://www.bri.or.jp>) からお申し込み下さい。

企業研究会 Q 検索

■受講料: 1名(税込・資料代含) ※申込書を FAX でご送信いただく際は、ご使用の FAX 機の使用状況(0発信の有無など)をご確認の上、FAX 番号をお間違えないようご注意ください。

正会員	34,560円(本体価格 32,000円)	一般	37,800円(本体価格 35,000円)
-----	-----------------------	----	-----------------------

181611-0303 ESGの本質・課題・対応策

ふりがな 会社名			
住所			
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 属 職		
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当者宛 E-mail からもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間~10日前まで)に受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問 (FAQ) は当会 HP にてご確認いただけます。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 公開セミナー事業グループ 担当/民秋・川守田 E-mail: [tamiaki@bri.or.jp](mailto:tamiaki@bri.or.jp)

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町 M-SQUARE 2F

・プログラム・

## 1. ESGの本質・課題・対応策

- (1) 国際社会・機関投資家などが注目する ESG とは何か
- (2) E: Environment における企業経営の側面と ESG 事例検討
- (3) S: Social における企業経営の側面と ESG 事例検討
- (4) G: Governance における企業経営の側面と ESG 事例検討
- (5) 国際的視点から見た日本における企業統治の課題
- (6) ESG としてのコーポレートガバナンス・コード対応策
- (7) 国連グローバルコンパクト(UNGC)や CSR と併せた機関投資家への対応
- (8) 社会的責任投資(SRI)や CG コードなどによる各種機関投資家からの要請と求められる対応
- (9) 企業統治におけるステークホルダーの整理と協働

## 2. ESGへの対応をコスト要因からプロフィット要因に転換する

- (1) 旧来型 CSR の壁を超える CSV 経営の対応・課題・着眼点
- (2) 「社会的問題=社会的問題解決ニーズ」として収益向上の源泉に転換する
- (3) CSV 経営の4類型の事例から見る企業戦略・ESG 対応事例の検討
- (4) ステークホルダーとの対話・協働こそが企業の「社会貢献営業」となる
- (5) CSR・コンプライアンス担当役員等の「公益取締役」「公益監査人」としての役割
- (6) サプライチェーン全体で収益や企業価値を高めながら社会的問題を解決するアプローチとは?
- (7) 社会的問題の解決や社会貢献をするほど収益が高まる CSV 経営での ESG 対応戦略

## 3. ESGで日本社会が特に求められるダイバーシティ&インクルージョン

- (1) ESG における「S: Social(社会的問題の解決)」としての働き方改革・ダイバーシティ経営
- (2) ボードメンバーの多様化: 女性の役員登用の要請や社内の男女等の差別解消への要請
- (3) ダイバーシティ&インクルージョン・働き方改革における日本企業の課題・必要な対策
- (4) 生き方働き方の多様化と企業内における相互の多様化
- (5) 働き方改革を通じた社会的問題の解決アプローチ
- (6) ESG 対応推進の支障となるアンコンシャス・バイアスを見つめる
- (7) 企業における倫理観や常識を見つめ直す ESG 対応の出発点の「3文字の原則」
- (8) ESG 事例の検討ダイバーシティ経営としての「ベクトル・ガードレール・アプローチ」
- (9) 「お互いに幸せになりあう経営」を通じたダイバーシティ経営・グローバル対応

## 4. 質疑応答

※最新動向や社会状況等に応じて、上記項目例は適宜改訂・修正させて頂く可能性がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。